

第859回教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 平成26年11月13日(木) 午後1時30分
- 2 招集場所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 庄子委員長, 佐竹委員, 伊藤委員, 遠藤委員, 奈須野委員, 高橋教育長
- 4 説明のため出席した者
吉田教育次長, 鈴木教育次長, 志子田総務課長, 梶村教育企画室長, 菊田福利課長,
鈴木教職員課長, 桂島義務教育課長, 門脇特別支援教育室長, 山内高校教育課長,
猪股施設整備課長, 松坂参事兼スポーツ健康課長, 三浦生涯学習課長, 笠原文化財保護課長 外
- 5 開 会 午後1時30分
- 6 第858回教育委員会会議録の承認について
委 員 長 (委員全員に諮って) 承認する。
- 7 第859回宮城県教育委員会定例会会議録署名委員の指名, 議事日程について
委 員 長 佐竹委員及び遠藤委員を指名する。
本日の議事日程は, 配付資料のとおり。
- 8 秘密会の決定
 - 5 専決処分報告
 - (1) 教育功績者表彰について
 - 6 議事
 - 第1号議案 職員の人事について
 - 第2号議案 宮城県生涯学習審議会委員の人事について

委 員 長 5 専決処分報告(1)及び議事各号議案については, 非開示情報等が含まれているため, その審議等については秘密会としてよろしいか。
(委員全員異議なし)
この審議については, 秘密会とする。

※ 会議録は別紙のとおり(秘密会のため非公開)

9 課長報告等

(1) 平成27年度宮城県・仙台市公立学校教員採用候補者選考の結果について

(説明者: 教職員課長)

平成27年度宮城県・仙台市公立学校教員採用候補者選考の結果について, 御報告申し上げます。

資料1ページをご覧ください。

はじめに「1 実施概況」について, 1次選考は7月26日(土), 27日(日)の両日にわたって, 県内の公立小学校, 高等学校, 及び東京海洋大学を会場に実施したものである。出願者数は3,892名で, 昨年度よりも42名増加している。さらに, ペーパーテストだけではなくより人物を重視した選考を行うため, 昨年度より76名多い1,284名を1次合格としたものである。

2次選考については, 9月12日(金)から16日(火)にかけて, 宮城県総合教育センターおよび仙台市教育センターにおいて実施した。

次に「2 今年度選考の特徴」について, 選考の結果, 増加する退職者, 講師の本務化への対応として, 昨年度よりも76名多い657名を名簿登載した。この数は過去10年間で最も多い登載者数となっている。このうち他県現職および講師経験者の占める割合は55.1%で, より即戦力として活躍が期待できる人材を確保することができたと考えている。なお, 今年度から実施した大学院への進学者・在籍者に対する名簿

登載猶予であるが、名簿登載者のうち9名となっており、将来の有望な人材を確保できたと考えている。また、障害者特別選考でも1名を名簿登載している。

次に「3 名簿登載者数」について、校種ごとの名簿登載者数は、小学校306名、中学校164名、中・高59名、高等学校95名、養護教諭25名、栄養教諭8名となっている。このうち、教職経験者特別選考での受験者による名簿登載者は150名で、名簿登載者全体に占める割合は22.9%となっている。また、名簿登載者の男女比は、男子287名、女子369名で、おおむね4:6となっている。なお、中・高の欄についてであるが、保健体育・音楽・美術・家庭の各教科については、中学校・高等学校の区別なく名簿登載を行い、採用配置の段階で中学校・高等学校に区分する仕組みになっているため、合計数を記載している。

最後に、今後の取組について、名簿登載者に対しては、採用までの過ごし方や教員としての心構えをより深め、4月から教壇に立って宮城の有為な人材の育成にあたる自覚を高めてもらうために、来年1月に情報交換会を開催する。また、来年度の選考に向けて、出願者数の減少傾向に歯止めをかけ、意欲のあるより優秀な人材を確保することができるよう12月から東北地区はもとより、関東圏の大学においても積極的に説明会を開催していくこととしている。

本件については、以上のとおりである。

(質 疑)

伊 藤 委 員

ただ今、教職員課長から説明があったとおり、今年度の選考試験の特徴としては、講師経験者が半分以上であり、即戦力として経験を有する方がこのようなかたちで採用されたことは、大変良い選考であったと思う。その方々が、来年4月以降に採用され、教育現場に配属されたときに力を発揮するためには、「4 今後の取り組み」にある予定者情報交換会でのレクチャーが非常に重要なものとなってくると思う。新規採用予定者に対する情報交換会は、どのような内容で開催する予定なのか、もう少し詳しく伺いたい。

教 職 員 課 長

情報交換会の詳細については、今後検討を進めていくところである。

昨年度の情報交換会では、教育長から宮城の教員としての心構えを話していただき、その後、担当からは今後、初任者としてどのような研修が行われるのか、日程等の説明を行った。また、分科会として校種別情報交換会を開き、先輩教員を招いて働きぶりや、教育現場での話を聞いた上で、新任になる教員の方々に、より職場のイメージを持ってもらい、あらためて教員として誇りや自覚を持つよう努めたところである。

奈 須 野 委 員

情報交換会を開催するに当たり、合格者の方々が欠席をした場合は、あらためて別な指導を行う予定はあるのか。

教 職 員 課 長

欠席者向けの情報交換会を別途、開催することは予定していないが、交換会の様子などは後日、伝えるようにしている。

奈 須 野 委 員

例えば、教育長の講話などを録画して、後日見せるということは考えているか。

教 職 員 課 長

録画までは予定していない。教育長の講話については、反訳して紙で配布するなどの対応をしていきたいと考えている。

奈 須 野 委 員

スタートは非常に重要である。初めての教育長講話も重要なので、事情があつて欠席する方へのケアをお願いする。

庄 子 委 員 長

欠席というのは理由があつて欠席だと思うが、出席率は高いのか。

教 職 員 課 長

ほとんどの方は、私事の用事がない限り参加している。出席率はほぼ全員に近い。

遠 藤 委 員

現職や講師経験者が半数以上ということで、現場を知っている方が多いことは非常に心強い。併せて、今回初任となった、常勤となったということであるから、たとえ現場を知っていたとしても、改めて教員としての初心を忘れず、大学を出て教員になろうと志した頃を思い出していただき、現在、教育に携わっている人にも立ち帰ってほしいということを是非強調してほしい。

教 職 員 課 長

講師経験者については、これまでの経験も生かしながら、初任者として宮城の教員としてのスタートということで気持ちを新たに持ってもらうよう、これまでもそうした意

識はしてきたが、今後も工夫しながら行ってまいりたい。

佐竹委員 先ほども話したが、情報交換会の開催は、非常に重きを置くべきであると思う。全ての教員が当然知っておくべき事柄や、教員を志した初心を固く心に誓うくらいのスタートラインに、全員が立てるよう御指導いただきたい。

教職員課長 情報交換会の分科会は、何人位の何グループに分かれて、どのような内容か伺いたい。分科会は校種毎に小学校、中学校、高校にグループ分けし、さらに中学、高校では教科毎に分け、その他にも養護教諭、栄養教諭というかたちでグループ分けしている。校種や科目によって多少人数のばらつきはあるが、昨年度は栄養教諭の場合、1～2名であったが、多くても20～30名位のグループになって話をしている。

佐竹委員 グループ内での話というのは、講師となる先輩教員からいろいろ話してもらい、意見交換するというかたちか。

教職員課長 はじめに先輩教員から話をさせていただき、話の内容に対して質問するという形式で進めている。

佐竹委員 初任者の皆さんは、志を高く持って参加していることは分かっているが、良いことも悪いこともアクシデントも全部含めた話し合いをしていただき、これから向かう教員としての志気を高めていただかなければならない。そうした士気を高めるための情報交換会となるような工夫をしていただきたいと思う。

教職員課長 昨年までの情報交換会についても、そうしたことを目標としていると思うが、新たな取組も取り入れていただくよう向き合っていただきたい。この一日をこれから教員になるための重要な一日と思っていただけるような情報交換会になってほしいと思う。それが実働につながるようなものであって欲しいと思う。

佐竹委員 先ほど説明した情報交換会の内容は、昨年度実績の内容である。内容については、これまでいただいた御意見も踏まえて、どのようなことをすれば良いか検討していきたいと考えている。

佐竹委員 例えば分科会であれば、一人の先輩ではなく何人かの方に来ていただき、パネルディスカッションのような形式で、それぞれの意見を聞いたりとか、これまでどういう学校でどのように教育指導してきたのかなど、そうした経験を聞くことも一つの勉強であると思う。一人に絞るのも大事かもしれないが、いろいろなタイプの先生方がいて、自分とは違うタイプの先生方もいるかもしれない。そうした枠を広げて考えていただければ、自分に即した教員の目指し方というのがあるのではないかと思うので、是非その辺も考慮して加味していただければ良いのかなと思う。

(2) 平成27年度宮城県公立高等学校入学者選抜に係る第1回志願者予備調査の結果について

(説明者：高校教育課長)

平成27年度公立高等学校入学者選抜に係る第1回志願者予備調査の集計結果が、まとまったので報告する。

資料は、2ページから8ページである。

2ページを御覧願いたい。

「1の調査目的」であるが、志願状況を把握することで、受験生の高校選択及び中学校の進路指導等の参考資料とするために実施するものである。

「2の調査対象校」については、県内の国公・私立中学校等254校について集計している。

「3の実施高等学校数・学科数」については、全日制課程では、70校、136学科、定時制課程では13校21学科、合わせて75校、157学科での実施となる。

次に、「4の総括」についてであるが、全日制課程の志願者調査では、募集定員14,920人に対して17,945人が志願しており、平均倍率は1.20倍と、前年と同じとなった。

このうち、前期選抜での出願を志望するものは、募集定員4,828人に対して、7,964人で、平均

倍率は1.65倍、前年度比では、0.50ポイント低下している。

これについては、前期選抜導入後、目的意識を持って志望校に積極的に挑戦する傾向は続いており、志願者は増加しているが、前期選抜の募集割合を10～20%引き上げ、募集人数を増やしたことから、全体としては、志願倍率が緩和されたものと考えている。

同じく、定時制課程の調査では、募集定員1,000人に対して、347人が志願しており、平均倍率は0.35倍となった。また、このうち、前期選抜での出願を志望するものは、前期募集定員308人に対して、95人で、平均倍率は、0.31倍となっている。

続いて、3ページから6ページには、「各高校の入学志願状況」を掲載しているが、これについては、後ほど御覧願いたい。

資料7ページを御覧願いたい。

「1の地区別志願倍率」についてであるが、(1)の志願者調査では、各地区ともほぼ前年並みの水準となっており、大きな変動はない。

また、(2)の前期選抜の調査では、中部北地区が1.93倍と最も高く、次いで、中部南地区の1.85倍となっているが、前期選抜の募集割合の見直しを行い、募集人数を増やしたことから、すべての地区で前年度を下回り、志願倍率の緩和が図られている。

次に、「2の学校・学科別の志願倍率」についてであるが、第1回予備調査で最も高い倍率となったのは、昨年度に続いて、仙台工業高校・建築科の2.50倍、次いで、古川工業高校・土木情報科の2.15倍であった。

次に、前期選抜では、仙台第一高校・普通科が6.17倍と最も高く、次いで仙台第三高校・普通科の4.07倍となった。

資料8ページを御覧願いたい。

「3の学科改編を行う学校・学科の志願倍率」には、来年度、統合新設される登米総合産業高校の志願倍率をまとめている。

我が県で初めての設置となる福祉科の志願者調査は、0.95倍、前期選抜調査では、1.31倍と期待の大きさを表す結果となった。

また、農業科0.83倍、機械科0.95倍、情報技術科0.80倍と1倍を下回ったものの、志願者数は前年度より増えており、新設校に対する関心は確実に高まっているものと考えている。また、新校舎の完成も近づいていることから、今後さらに、中学生や保護者、学校関係者に対し、新設校の魅力について周知・広報に努めてまいらる。

今回の調査は、11月時点における希望動向であるが、今後、1月に行われる第2回目の予備調査の結果をまとめ、受験生の高校選択及び中学校の進路指導等の参考となる情報提供を行ってまいらる。

本件については、以上のとおりである。

(質 疑)

伊 藤 委 員

新設校に対する期待が大きいことについては、そのとおりであると思う。新設校の志願倍率については、情報発信も非常に大切な要素の一つであると思う。

昨日ホームページを見たところ、登米総合産業高校については校章と校歌が決定したことと、ページアクセスも昨日時点で6,640人であった。プレゼンテーションの映像も明るく活発で、その学科に自分が入学したときに具体的に何をやるのだろうかというイメージが湧きやすい、そんな印象を受けたところである。これはこれまでの関係の皆様のお力が成果として表れていると感じている。

もう一点、報告資料にはないが、平成28年4月から多賀城高校に災害科学科が誕生する。こちらのホームページも見たところ、開校まであと500何日とか、それぞれの学校レベルで工夫が凝らされている様子が見えた。

パンフレットができたときには学校説明会時に配布するなど、それぞれの地域の特性において学校独自の取り組みがきちんとなされていると感じた。関係各位の皆様にご挨拶申し上げる。開校に向けてさらにいろいろとハードルがあると思うが、今後とも引き続き

き御尽力いただきたい。

高校教育課長

登米総合産業高校については、実態としては登米地域全体が少子化の影響もあって地区全体として定員割れしている状況であるが、資料7ページの「1 地区別の志願倍率(全日制)」を御覧願いたい。

3つの学校が統合してできる登米総合産業高校では、昨年度のそれぞれの学校の募集人数を上回る結果となっている。先ほど御紹介いただいたPRも含めて、今後2回目の本出願に向けて更なる周知広報に努めてまいりたい。

遠藤委員

第1回予備調査から第2回予備調査が年明けに予定されているが、この間、高等学校から中学校への広報は予定されているのか。

高校教育課長

全県や地区毎に取りまとめを行う合同の説明会や相談会は、予定されていない。この間は各学校ごとに、中には中学校からの求めに応じて中学校に出向いて説明会を開催したり、あるいは高校で説明会を開催する形で中学生の参加を集うなど、そうした機会になってくると思う。

遠藤委員

各学校での対応ということで良いか。

高校教育課長

そのとおりである。

遠藤委員

先月の定例会の報告の中で、途中で進路変更する生徒がいるという説明があった。自分で選んだ高校に合わないとの理由から途中でやめてしまう生徒も少なからずいる。

これまで各高校では、学校の特長や長所をアピールするよう学校見学会や説明会が行われていると思うが、生徒や保護者からの要望の中で本校の教育課程ではできないとはっきりと伝えることも必要であると思う。

先日開催された「さんフェアみやぎ」に行き各学校のブースを見ると、自分達の学校の行っていることや研究について自信を持って生徒たちが説明している姿を見て、こうした形で3年間の高校生活を終えられたらいいだろうなあと思った。一方でドロップアウトしてしまう生徒というのは、十分に学校の特性を理解しないまま受験し入学してしまうため、途中で進路変更するのではないかと思う。今からでは遅いかもかもしれないが、各学校でそういう取り組みが可能であれば、本校ではできないということも明らかにしたら良いのではないかと思う。

高校教育課長

大変貴重で重要な御指摘であると受け止めている。新入試制度を導入して3年目となるが、受験生の意欲や目的意識を大事にし、生徒の主体的な進路選択を促し、目的を持って高校に入学してもらうことを狙いとして掲げている。各学校では、自分の学校はどのような魅力があるか、どのような特色があるか、どんな期待に応えられるか、そうした部分を示して、それに対して生徒が意欲、目的を持って入学する。この両方がなければいけないと思う。そうした意味では、各学校において、ただ今御指摘いただいたことも十分踏まえながら丁寧な説明を心掛けて、間違いのない進路選びに繋げていかなければならないと考えている。

佐竹委員

高校の進路志望する際、目的意識を持って高校を選択することに関しては、望ましいことであるが、中学校の段階で、自分の進みたい道が見えている生徒は全てではないと思う。自分の中で特に興味があることや、自分の特質がどこにあるのか、どこが合うのか、どこが向いているのかについては、保護者や先生に十分に相談したり、オープンスクールなどにも積極的に参加するよう促していただきたい。そうした中から、何が自分に合うのかをもう一度立ち止まって考えていただき、リタイアしないためにどうしたら良いのかを考えてもらう一番重要な部分ではないかと思う。

はじめは、この高校に行きたいという気持ちが優先して、最初の希望を出すと思う。次に一度立ち止まって自分を振り返り、みんなと相談しながら次の段階に進んでいくということで、希望とやる気、プラス実働という部分をきちんと兼ね備えられるようなケアリングをしていただくと良いと思う。これからの期間は、もう一度本人と向き合っ

いくための重要な期間と考えているので、高校側でも中学校側でも、生徒へのアプローチの仕方や受け方について、あらためて御指導いただきたい。

高校教育課長

中学校側からすれば単なる出口指導にとどまらない。高校側からすれば生徒募集にとどまらない高校入試の意義といった部分について、改めて中学校、高校、それぞれの現場の立場の者に必要な指導、話をしていきたいと考えている。

庄子委員長

以前、仙台三高を訪ねた際、幼稚園くらいの子どもを連れた母親が校庭・校舎に入ってきて来ていて、地域と馴染んでいるというか、学校と地域の連携ができていて良いなあと感じた。先生に聞いたところ、普段から地域の方が校舎に入ることを歓迎しているという話であった。

今はいろいろな事件が起きているので、小学校、中学校の場合は難しいかもしれないが、高校生ともなると大人なので、児童・生徒、父兄、地域の方々と一緒に普段から馴染んでいただくような雰囲気を作っていただくと良いなあと感じた。

佐竹委員

開かれた高校で、セキュリティはしっかりしているということか。

高校教育課長

不審者などの問題などから警備上の課題もあるが、一方でそうした開かれた学校づくりを進めている学校もある。例えば、学校施設の一部を開放するものであったり、美術科のある学校であれば、学校の入口近くにギャラリーのようなものを展示して、一般開放して御覧いただいたり、あるいは校庭内にある小さな公園のようなスペースがあれば、そうしたところを散歩コースとして利用いただくなど、様々なかたちで地域に開かれた学校づくりを進めているところである。

こうした点については、県立であっても学校が地域に根ざしていく上で、地域の町の中に根ざした学校として、今後考えていく上でとても必要な視点であると考えている。そうした点についても十分配慮しながら学校づくりを進めてまいりたいと考えている。

佐竹委員

ただ今説明のあったようなギャラリーを作ったり、公園のような場所に自由に入出りしてもらっていることは、全然知らなかった。勝手に校内に入っただけはいけないという感じを持っていた。地域社会の多くの人には知らない人が多いと思うので、可能な限りホームページなどで周知していただきたいと思う。

高校教育課長

各学校の地域性や周辺の住環境など様々な要件があるので、全ての学校を全部開放するということはできない。地域に開かれた学校づくりの趣旨に沿い、各学校の事情の許す範囲内で、開放できる部分については開放に努めてまいりたい。

佐竹委員

全ての学校を解放とは考えていないが、地域に開放している学校もあるということを知っていただき、地域連携の一助となるよう努めていただきたい。

1.1 資料（配付のみ）

- (1) 教育庁関連情報一覧について
- (2) 宮城の防災教育だよりについて
- (3) 平成27年3月高等学校卒業予定者の就職内定状況について
- (4) 第69回国民体育大会の結果について

1.2 次回教育委員会の開催日程について

委員長 次回の定例会は、平成26年12月17日（水）午後1時30分から開会する。

1.3 閉会 午後3時19分

平成26年12月17日

署名委員

署名委員